

## 次期 S I P ターゲット領域有識者検討会議（第 4 回）（概要）

1. 日時 令和 4 年 3 月 22 日（金） 15:00～17:15

2. 場所 ハイブリッド開催

## 3. 出席者

赤池 伸一 文部科学省科学技術・学術政策研究所 上席フェロー  
内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 参事官

五十嵐 仁一 一般社団法人産業競争力懇談会 実行委員長  
ENEOS 総研株式会社 代表取締役社長

金田 安史 国立大学法人大阪大学 理事・副学長  
（代理：秦 茂則 国立大学法人大阪大学 教授）

川上 登福 公益社団法人経済同友会 幹事  
株式会社経営共創基盤 共同経営者（パートナー） マネージングディレクター

岸本 喜久雄 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構  
技術戦略研究センター センター長

倉持 隆雄 国立研究開発法人科学技術振興機構  
研究開発戦略センター 副センター長

坂田 一郎 国立大学法人東京大学 総長特別参与 大学院工学系研究科教授

篠原 弘道 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員

須藤 亮 内閣府 政策参与・S I P プログラム統括

橋本 和仁 元 内閣府 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員  
国立研究開発法人物質・材料研究機構 理事長

宮澤 伸 日本商工会議所 地域振興部長

（欠席）

小川 尚子 一般社団法人日本経済団体連合会 産業技術本部 副本部長

## 4. 配布資料

資料 1 次期 S I P ターゲット領域有識者検討会議（第 3 回）議事概要

資料 2 次期 S I P の検討状況について

資料 3-1 次期 S I P の各課題候補に係る情報提供依頼（RFI）結果の整理について

資料 3-2 e-CSTI 等を用いた RFI の試行分析

資料 4-1 次期 S I P のフィージビリティスタディ（FS）の運営方針について（令和 4 年 2 月 1 日  
ガバニングボード報告）

資料 4-2 次期 S I P の FS のワークフロー（案）

資料 5 令和 4 年度の S I P 課題・制度に係る検討体制

参考資料1 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の見直し ～次期 SIP に向けた課題候補の決定と制度・運用面の見直し～（令和4年2月1日総合科学技術・イノベーション会議報告）

参考資料2 RFI 時の各課題候補の参考資料

## 5. 議事

- (1) 次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第3回） 議事概要について
- (2) 次期 SIP の実施に向けた検討状況について
- (3) 次期 SIP の各課題候補に係る情報提供依頼（RFI）結果の整理について
- (4) 次期 SIP のフェージビリティスタディ（FS）の運営方針について
- (5) 次期 SIP の今後の進め方について

## 6. 次期 SIP の課題候補

- ①豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築
- ②統合型ヘルスケアシステムの構築
- ③包摂的コミュニティプラットフォームの構築
- ④ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築
- ⑤海洋安全保障プラットフォームの構築
- ⑥スマートエネルギーマネジメントシステムの構築
- ⑦サーキュラーエコノミーシステムの構築
- ⑧スマート防災ネットワークの構築
- ⑨スマートインフラマネジメントシステムの構築
- ⑩スマートモビリティプラットフォームの構築
- ⑪人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備
- ⑫バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備
- ⑬先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進
- ⑭AI・データの安全・安心な利活用のための基盤技術・ルールの整備
- ⑮マテリアルプロセスイノベーションの基盤技術の整備

## 7. 議事概要

- (1) 事務局より、資料1に基づき、「次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議（第3回。以下「検討会議」という。） 議事概要」について説明を行った。
- (2) 事務局より、資料2に基づき、「次期 SIP の検討状況」について、資料3-1に基づき、「次期 SIP の各課題候補に係る情報提供依頼（RFI）結果の整理」について、また、赤池参事官より、資料3-2に基づき、「e-CSTI 等を用いた RFI の試行分析」について、それぞれ説明し、議論を行った。構成員からの主な意見は以下のとおり。課題候補の番号は6. のとおり。
  - ・15の課題候補の構造化は重要なステップである。さらに、要素技術～基盤～価値創造にというレイヤーで整理した上で、トータルとして相互関連、上流からの要素技術にどのような要求があるのかを見る必要がある。
  - ・PDの役割として、目指すべき社会観をはっきり言うべきである。各課題候補について、比較的漠然とした世界観しか示されていないものもある。特に①～⑫は国民との距離が近い課

題であるので、国民へのメッセージが必要。

- ・①、②、⑧、⑨、⑩は過去の SIP や PRISM との関係性も踏まえて整理が必要。
  - ・③については、対象を絞るか地域を絞るか、社会実装を考慮したら地域を絞り、対象を幅広く実施すべき。
  - ・④については、CSTI では地方創生×教育・人材育成×地域を掲げているので「学び方」に比重を置いたほうがよい。
  - ・秘密計算はいろいろなテーマで提案があったので、⑭でまとめてとりあげて他に活用し、共通化して使えるようにしたほうがよい。
  - ・第 2 期の課題に関係する①、②や⑨など、RFI の件数が多いものは成功する可能性が高い。一方で、第 2 期にも関係する⑬、⑭、⑮は RFI の件数が少ないが、プレイヤーが限られるためと考えられ、うまく課題検討を進める必要がある。
  - ・全体的に②、⑧、⑨等の社会課題に対応したものの提案が多いのは、抱えている問題が提案につながるためであろう。これらをいかに社会実装まで持っていくかが重要。
  - ・RFI の位置付けはあくまでもアイデア出しであり、出てきたアイデアを参考にしてより良いテーマを PD が策定するというプロセスである。
  - ・どんなに良いものを作っても人材が重要となる。やる気と能力とそれをサポートする組織がないとできない。
  - ・PD の要件について、戦略を打ち出す役割が期待される一方、社会システムの整備等は研究してできるものではない。PD と連携しつつ戦略を実現する支援体制も重要である。
  - ・早く成果が出るテーマもあれば、テーマ作りから答えを出すまでに苦労しそうなテーマもある。1 つに定めるのではなく、テーマに併せてゴールを設定すべき。
  - ・基礎から応用まで 1 つのチームで取り組むのが SIP であり、すぐに必要となるテーマだけ扱うのが SIP ではないことを認識して進めるべき。
  - ・SIP は府省連携で取り組むものであり、それぞれの課題にどの府省が関係するか整理が必要。
  - ・スタートアップの活躍する余地がありそうだが、今後の進め方としてスタートアップの活用を議論できると良い。
  - ・社会実装する場合に TRL や BRL の状況で組み合わせを考える必要がある。また、分野や領域によって評価も異なることに留意する必要がある。
  - ・多くの領域でデータプラットフォームが出てくるが、その中に共通する部分があると思う。現場の負担軽減のため、共通化できるところは共通化すべき。
  - ・データを単純に収集しても、使えるデータを集めるのは非常に労力がかかる。共通化の考え方は良いが「共通だから」というまとめ方ではなく現場の状況も考慮すべき。
  - ・e-CSTI のエビデンスはマクロ評価には有効であるが、ミクロでは個々に評価した方がよい。論文はないが興味深いテーマなのか、単に論文が多いだけなのか、検討が必要である。
  - ・総合知の活用はテーマによって入っている／いないと、ばらつきがあるが、改めて総合知の活用を入れるようにしたらよい。
- (3) 「次期 SIP の各課題候補に係る情報提供依頼 (RFI) 結果の整理」で示した各課題候補の全体の方向性やサブ課題の構成案並びに各課題候補の PD 候補に求められるスキルについて、今回のコメントを反映したうえでとりまとめ、ガバニングボードに報告することについて了解が得られた。
- (4) 事務局より、資料 4-1 に基づいて、「次期 SIP のフェジビリティスタディ (FS) の運営方針」について、資料 4-2 に基づいて、「次期 SIP の FS のワークフロー (案)」について、資料 5 に基づいて、「令和 4 年度の SIP 課題・制度に係る検討体制」について説明し、議論を行った。構成員からの主な意見は以下のとおり。

- ・PD 候補の選定の重要性が明確になった。まず、何を求め、どのような自由度があるのか、どのような組織バックアップがあるかを決めるとともに、利益相反の条件出し等はボーダーぎりぎりまで緩和する必要がある。
  - ・PD 候補を決定したら、方針を示した上で、あとは任せて、PD 候補にしっかりと考えてもらうことが重要。
  - ・研究推進法人の役割・サポート無しには、PD が非常に苦勞すると思う。FS をやるのであれば途中でいろいろ関与しないほうが良いのではないか。また、計画を立てたら5年間は任せるくらいにして、途中で軌道修正が入らないほうが良い。
  - ・研究推進法人のサポートは最重要。どんなインセンティブがあるか、研究推進法人にも非常に重要。また、省庁との関係もサポートがないと戦略が実装できない。
  - ・構造化した15の各課題候補について、各省の取組等を踏まえながらこの1年でやるべきものを切り出すことが必要。
  - ・イノベーションを視野にいて、研究開発のレイヤーと社会実装を一緒に考えることがポイントである。
  - ・SIPらしさを出すには環境、規制、事業当局が主導し、研究開発はサブでよい。
  - ・ボトムアップよりも仮説を立てることが重要であろう。何のためにどうデータを取りたいか、インタラクティブなコミュニケーションが重要である。
  - ・個別調査においてステークホルダーヒアリングが含まれているが、スタートアップも含めてほしい。スタートアップ巻き込みが一つの重要な視点と思う。内閣府のスタートアップエコシステム拠点事業（関西地域も指定されている）との相乗効果も狙うべき。
- (5) 「次期 SIP のフェージビリティスタディ (FS) の運営方針」、「次期 SIP の FS のワークフロー (案)」について、構成員からのコメントを踏まえてとりまとめ、ガバニングボードにて、次期 SIP の FS の運営方針を報告することについて了解が得られた。
- (6) 今回の会議をもって、次期 SIP ターゲット領域有識者検討会議は、終了した。本検討会議で検討した各課題候補の全体の方向性やサブ課題の構成案並びに各課題候補の PD 候補に求められるスキルについて、ガバニングボードに諮り、了解が得られたら、それらを基に PD 候補の公募を行うこととなった。